

ベンチャー(VENM)

EMSでシンガポール2位。米トランプ次期政権で米中経済摩擦が激化すればシンガポールEMS企業の見直しも

シンガポール | EMS・ODM(受託製造サービス) | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG VMS:SP | REUTERS VENM.SI

- 2024/12期1H(1-6月)は、売上高が前年同期比12.5%減、純利益が同11.7%減。顧客の需要減と在庫調整で減収も、財務改善が進展した。
- 技術ドメインにおける大半の事業が減収。シンガポールは底固く推移したものの、その他のアジア太平洋地域(含む中国)の不振が響いた。
- 米トランプ次期政権で想定される米中経済摩擦の下、西側諸国と中国のどちらにも与しないアセアンのシンガポール企業の重要性が増そう。

What is the news?

7/30発表の2024/12期1H(1-6月)は、売上高が前年同期比12.5%減の13.84億SGD、純利益が同11.7%減の1.23億SGD。顧客需要の低下および高水準だった在庫調整が響いたものの、財務改善へ取り組みつつ、売上高純利益率が同0.1ポイント上昇の8.9%と効率化が進展した。営業活動キャッシュフローが同4%増の3.02億SGD、バランスシート上も在庫および運転資本の減少に伴って純現金収支が同33%増の11.9億SGDへ改善した。2Q(4-6月)の前四半期比は、売上高が7.6%増、純利益が5.7%増と会社予想通りの増収となった。

1Hの事業セグメント別の業績は以下の通り。(1)技術ドメイン別の売上高は、①「ポートフォリオA」(生命科学、遺伝子解析、分子診断その他関連材料技術、医療機器および設備、ヘルスケア&ウェルネス技術、ライフスタイル消費者技術、健康増進製品その他)が前年同期比12.6%減の6.03億SGD、②「ポートフォリオB」(計測・検査測定技術、ネットワーク&通信、セキュリティ&安全、建築自動化、産業IoT、フィンテックおよび高度決済システム、コンピューティング・生産性システム、高度産業技術、半導体関連製品、印刷・イメージング、その他部品技術)は、同12.4%減の7.80億SGDだった。(2)地域セグメント別売上高は、シンガポールが前期年同比16.5%減の3.47億SGD、シンガポール除くアジア太平洋(含む中国)が同11.0%減の9.61億SGD、その他地域が同12.0%減の75.7百万SGDだった。

How do we view this?

同社は、EMS(電子機器受託製造サービス)においてシンガポール企業としては米ナスダック上場のフレックス(FLEX)に次いで2位である。

EMS研究ウェブサイトのMMIによれば、2023年の世界EMSランキングで同社は11位(フレックスは5位)とされている。同社より上位の海外企業(9社)は、台湾企業が4社、米国企業が3社、中国本土企業が1社、カナダ企業が1社である。米トランプ次期政権下で米中経済摩擦の高まりと中国との供給網分断が予想される中で、西側諸国と中国とのどちらの陣営にも偏らず「アセアンのハブ」として貿易拠点の地位を占めるシンガポール企業は欧米企業へのEMSにおいて重要性を増すと考えられよう。

業績推移

※参考レート 1SGD=115.53円

事業年度	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12F	2025/12F
売上高(百万SGD)	3,106	3,862	3,023	2,878	3,045
当期利益(百万SGD)	312	369	270	251	277
EPS(SGD)	1.07	1.27	0.93	0.87	0.96
PER(倍)	14.81	12.14	13.93	14.52	13.19
BPS(SGD)	9.35	9.76	9.76	9.91	10.13
PBR(倍)	1.69	1.58	1.32	1.28	1.25
配当(SGD)	0.75	0.75	0.75	0.74	0.74
配当利回り(%)	4.73	4.87	5.81	5.82	5.86

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD)	0.74	(予想はBloomberg)
終値(SGD)	12.68	2024/11/18

会社概要

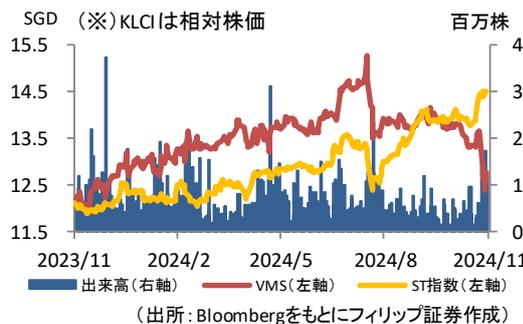
1999年に3社の合併により設立されたシンガポールを本拠とする電子サービスプロバイダー。「フォーチュン500社」メンバーである100社以上のグローバル企業に対して受託製造業務を行い、大手エレクトロニクス企業のバリューチェーン管理においてトップクラスの地位を占めている。

イノベーション、設計開発、製品およびプロセス・エンジニアリング、製造可能な設計、サプライチェーン・マネジメントなど、多様な技術領域における能力・キャパシティを擁する。東南アジア、北東アジア、アメリカ、欧州にセンター・オブ・エクセレンスを擁し、世界各地に30以上の会社を有する。

様々な技術領域における深いノウハウと専門知識で知られている。その中には、ライフサイエンス、ゲノミクス、分子診断、医療機器、ヘルスケア、ラグジュアリーライフスタイル、ウェルネス技術、試験・計測技術機器、ネットワーク・通信、先端産業、コンピューティング、印刷、イメージング技術などが含まれる。

企業データ(2024/11/19)

ベータ値	1.00
時価総額(百万SGD)	3,719
企業価値=EV(百万SGD)	2,555
3か月平均売買代金(百万SGD)	7.3



主要株主(2024/11)

	(%)
1. Wong Ngit Liang	7.16
2. シルチェスター・インターナショナル	7.09
3. アメリプライズ・ファイナンシャル	7.00

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
+81 3 3666 6980
kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。